

第 6 回 講義の基本問題・応用問題（その 1）

学籍番号								提出日	月	日	6
学籍	学部		年	氏名						1	

問 6 - 1 民法 733 条によれば、女性は、前婚の解消又は取消しの日から 6 か月間は結婚することができない。

(1) この規制の立法目的を考えよ。なぜ女性に再婚禁止期間を設ける必要があるのか。

(2) 男性には、再婚禁止期間についての規定は存在しない。このことについて、憲法学的には、どのように考えるべきか。

(3) かりに女性にのみ再婚禁止期間が設けられていることが日本国憲法 14 条に定める法の下での平等に違反するとして、では、インドなどのように男性にも再婚禁止期間を設ければ、違憲状態は解消されるといえるか。

第6回講義の基本問題・応用問題（その2）

学籍番号								提出日	月	日	6	
学籍	学部			年	氏名							2

問6-2 男性よりも女性のほうが2年早く婚姻をすることができるとする民法731条の規定は、憲法14条に違反するか。

問6-3 女子に対する姦淫のみを強姦罪とする刑法177条の規定は、憲法14条に違反するか。

第 6 回 講義の基本問題・応用問題（その 3）

学籍番号								提出日	月	日	6	
学籍	学部			年	氏名							3

問 6 - 4 児童虐待が社会問題化している今日、刑法上、親が子を殺した場合に、通常の殺人罪とは別に卑属殺人罪という犯罪類型を設け、通常の殺人罪よりも重い法定刑とすることは、憲法上問題があるか。

問 6 - 5 マイノリティに対する優先処遇の方法として、定員のある入学試験について考える。一定数のマイノリティについて合格枠を設けるという方法と、マイノリティであることについて一定の加点をするという方法とでは、いずれがより妥当であるといえるか。